



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

## ひので映画大使最新版

[2017年6月8日]

### 第80回映画大使「八重子のハミング」

- ・ 期日 平成29年5月27日(土曜日) ※イオンシネマ日の出での公開初日！
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

#### 作品介绍

「半落ち」「陽はまた昇る」など数々の名作を世に送り出してきた佐々部清監督が、陽信孝の同名著書『八重子のハミング』をもとに映画化したヒューマン・ドラマ。

主演は夫、石崎誠吾を佐々部作品「群青色の、とおり道」など多くの作品に出演している升毅が、妻、八重子を「パイレーツによろしく」などに出演し28年ぶりの映画出演となる高橋洋子が演じるほか、梅沢富美男、井上順などが脇をかためている。

山口県萩市を舞台に4度のがん手術を受け、がんと戦う夫が、およそ12年間にわたりアルツハイマーの妻を介護した過酷な経験を、それを支えた夫婦の愛と絆とともにまっすぐに描き出す。



(C) Team『八重子のハミング』

### 映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

#### 映画大使の「第一声！」

- ★ 多くの方に観ていただきたい作品でしたね！
- ★ 涙なくしては観る事の出来ない作品でした。
- ★ 感動しましたし、心に残りましたね！
- ★ 誠吾さんのあまりの優しさに感動するばかりでした。



今回参加された、映画大使の皆さんです！

---

**映画大使の「映画のツボ！」**

---

**Aさん**

私は現在、認知症の方がいる職場で介護職をしまして、観ていて泣いてしまいました。

夫の誠吾さんはとても優しく介護をされていましたが、どうしたらあのようにできるのかなと思いました。私は、仕事として介護をしても、あのように出来ないと思いましたね。

また、誠吾さんの家族のようになれるのは、夢ではないかなとも思いました。

認知症の方は、10秒前の事を忘れてしまい同じ事を何回も話したりします。これから私たちや家族、近所の方がいつ認知症になるかわかりませんので、多くの方にこの作品を観ていただいて、少しでも誠吾さんの優しさを学べたらいいのかなと思いましたね。

この作品を皆さんに観ていただきたいと思いますし、おすすめしたいと思います。

**Bさん**

涙なくしては観る事の出来ない作品でした。

この話で描かれている事は、これからの生活をしていくうえで、起こりえる事であると思いますし、誰でも起こり得る可能性がある事だと思いますので、そのような事になった時の参考になるなと思いました。作品の中でいろいろな事がありましたが、誠吾さんの介護は愛情に満ち溢れていて、私とその立場であればどのようにできるのかなと思いました。また、周りの方もあまりがんばりすぎないで、ありのままで介護をしていく事が大切なのだと感じました。

感動しましたし、心に残りましたね。

私も多くの人に見ていただきたい作品であると強く思いました。

**Cさん**

他人事とは思えないと思いました。

良い作品でしたね。

**Dさん**

この作品を観ていて、誠吾さんが奥さんを凄く愛しているなと感じましたし、私は誠吾さんのように介護をする事は出来ないとも思いました。どうしても誰かを頼ってしまって、全て1人で介護する事は無理だと思いましたね。

私は親と一緒に住んでいますが、見ていると認知症になっていなくても、年齢とともにいろいろな事が出来なくなっている事がわかります。ちょっとした事で本人もイライラしますし、周りの家族もイライラしてしまうものですが、誠吾さんは上手に介護されていました。その姿を観て勉強になりましたね。家族に優しくなくてはいけないなとも思いました。

感動しました。

**Eさん**

この作品で描かれている介護は、理想的だと思いました。誠吾さんは、自分も闘病しながら、よくあそこまで介護をしていく事ができるなと思いましたね。

誠吾さんと八重子さんのお二人の姿を観ていて、愛し合っているのだなと強く思いました。

今、老々介護などとも言われていますし、この作品は実話を基に作られているので、お二人のような方もいるのだな、などいろいろな事を考えながら観ていましたね。

**Fさん**

男性が、奥さんを優しく介護していくという事は難しい事なのだと思いますし、家族だけで介護をしていく事は難しい事だと思います。今は介護保険制度がありますので、家で認知症の方を介護している方はほとんどいないと思いますので、ありがたいなと感じましたね。

**Gさん**

私は実際に介護をした事がなく、社会福祉で介護の勉強をしたり講演会へ参加したりはしているのですが、実際に体験をしているわけではないので実感がわいていなかったです。この作品を観てかなり介護が身近に感じましたね。

ご近所にも認知症である事が言えずに他人に迷惑をかけたり、心無い言葉を言ってしまったりし、傷つけてしまっているご家族もいますので、誠吾さんは神職もされている立場で町の人みんなに知らせているので、勇気があるなと思いました。そのようにしたので、うまく介護ができたのかなとも思いますが。

私が、夫の介護をするのはいいのですが、夫には介護をさせたくないなとも思いました。

**Hさん**

この作品を観まして、私も妻にこのようにしなくてはならないのかなと思いました。

二人がうまくいって周りの方からも信望が厚かったのは、なぜなのかと考えました。それは、八重子さんの足腰がしっかりして、外に出かけて人との接触をし、お付き合いをしていたからなのではないかと思いましたね。私も足腰をしっかりとなるよう努力して、外に連れて行ってもらえるようにしたいと思いました。

この作品の中で、困った時に機転を利かせて救ってくれた方がいましたが、私もたとえ小さな事でもそのような事ができるようにしていきたいなと思いましたね。

この作品を観まして、今できる事を日々行っていければ充実した人生を送れるのではないかなと感じました。皆さんに観てほしいですね。

## Iさん

私も誠吾さんのあまりの優しさに感動するばかりでした。

今は、ヘルパーの方をお願いできたり、介護保険があつたりしますが、この作品の頃はまだありませんでしたよね。誠吾さんは介護の勉強もされていなかったのに介護できていたのは、優しさがあつたからですよね。優しきは大事だなと思いました。その姿を見て、娘や孫にも通じていったのだと思いますね。

私の家族にも、認知症の方がいた事がありまして、大変でしたが、家族で最後まで面倒をみていました。やはり、優しく接すれば気持ちが伝わるものだと感じていましたね。

### 作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・ご近所の方など周りの方を巻き込んで介護する事が大切だなと感じましたね！

・認知症は脳の病気なので周りに隠さない事が大事だと思いました。

・誠吾さんは宮司なので寛大なのかなと思いましたね！

・誠吾さんと八重子さんはお互い教師だったので、通じるものがあつたのですね。

・とっても良い作品でした。観る事が出来て良かったです。

・介護をしていくには、笑顔や笑いが大切だと思いますね！

・音楽は大切なんですね！

### まとめ

この作品は「半落ち」「陽はまた昇る」のような、常に作品としっかり向きあい丁寧に作りあげている佐々部監督の作品です。この作品でも、夫、誠吾さんの手術後の闘病のシーンや誠吾さんが八重子さんを介護するシーンなど各シーンが丁寧に、そしてこだわって描かれている事を感じました。

物語の中で中心となって描いているのはなんといっても夫、誠吾さんの『優しさ』であり、二人の家族や、近隣の方などの想いや反応にまで焦点が当てられている人間ドラマになっています。

高橋洋子の演技の凄まじさなどもあり、まるで自分がその場にいるような感覚になってきました。

映画大使の方からは『観る事が出来て良かった』や『皆さんに観てほしい作品』と言われ、更に後日にも、お礼の電話をいただきました。

『人として少しでも何かできる事をしていきたい』とおっしゃっていた大使の方もいらっしやるとおり、それぞれの方に多く事を刻んだ作品でした。

映画は是非、劇場の大スクリーンでご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をする事が出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

### 関連ページ

- [これまでのひので映画大使](#)
- [ひので映画大使のトップに戻る](#)

### ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

送信

### お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係  
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.